

第3学年2組 外国語活動学習指導案

【日時】令和7年7月23日(水) 13:30～14:15 【場所】多目的室3 【指導者】小林 佳愛

本授業の参観の視点

身近な不思議や発見について、簡単な語句や表現を使って工夫して伝えたり、友達の発見をよく聞いて反応を示したりすることで、互いの発見のよさや面白さを認め合いながらやり取りを楽しむ児童の姿をご覧ください。

1 単元名 Welcome to the 3-2 Pavilion! ～身の回りの不思議や発見を伝え合おう～

(*Let's Try! 1* Unit 8 “What's this?”参照)

2 単元の構想

(1) 単元について

本単元は、*Let's Try! 1* Unit 8 “What's this?”を基に、児童の実態に合わせて構成したものである。現在、日本で開催されている大阪・関西万博（EXPO2025）は、世界各国が未来に向けた課題やアイデアを持ち寄り、多様な文化や価値観が交わる国際的な交流の場として注目を集めている。こうした実社会の動きと結び付けながら学ぶことは、児童の「自分の発見や思いを伝えたい」という気持ちをさらに高め、外国語を使って表現しようとする姿勢を育む上で効果的であると考え。本単元では、児童が生活や他教科等の学びの中で出会う身近な素材や不思議な現象を題材に、それぞれテーマを決めて体験型のパビリオン(展示ブース)をつくり、友達同士で英語によるやり取りを行う。“What's this?” “Is it circle?”

“Big? Small?”といった表現を使いながら、具体物やその観察の結果を基にクイズ形式で伝え合う。このような体験的な活動を通して、児童が「身近なものを表現するためのヒントはたくさんある」「何とかして工夫すれば互いの言いたいことを伝え合うことができそう」といった実感を持ち、外国語によるやり取りへの意欲や自信を高めることが期待できる。こうした学びは、高学年外国語科や中学校英語科における、簡単な語句や文を用いてその場で質問をしたり答えたりして伝え合う、即興的なやり取りを進める力の土台となるだろう。

(2) 児童について

本学級の児童は、外国語に対する抵抗感が少なく、簡単なフレーズに進んで反応したり、友達と一緒に口に出してみたりするなど、意欲的に活動に取り組んでいる。日本語とは異なる音声やリズムを楽しみながら、日常の中で用いられる簡単な表現を少しずつ蓄積している段階にあると言える。また、自然現象や生き物の特徴など、身の回りの不思議に対する関心が高く、観察や発見を通して、自分の思いや疑問を言葉にしようとする姿も見られる。一方で、自分の「本当に伝えたいこと」を、目的や場面、状況に応じて自分なりの言葉で組み立てて表現した経験は少ない。日常の中にある驚きや発見を友達と共有したいという思いをもっている児童だからこそ、伝えたいことを見付け、言葉を選んで伝え合う経験を重ねていくことが必要である。友達に自分の発見を伝えたい、友達の話を知りたいという気持ちを出発点に、児童が外国語で伝え合うことに前向きに取り組み、自分の言葉で粘り強くやり取りをしようとする姿勢を育てていきたい。

(3) 指導について

本単元では、児童が限られた語彙や英語運用能力の中でも、自分の伝えたいことを何とかして伝えようとする姿勢を大切に、その過程を肯定的に捉えられるような指導を行う。特に、児童同士で自分の発見を伝え合う活動においては、相手の表現の意図を汲み取ろうとしたり、話の内容を想像しながら理解しようとする力を育てることを重視する。そのために、聞き手となる児童が「相手は何を言おうとしているのか」「どのように伝えようとしているのか」といった視点をもって聞く経験を重ねることができるよう、やり取りの中に推測・共感・問い返しなどを促す場面を意図的に仕組む。また、話し手にとっても「正しく言えたかどうか」だけでなく、「分かりやすく伝えるためにどんな工夫をしたか」「なぜうまく伝わらなかったのか」といったやり取りの過程に目を向ける視点をもたせることで、自身の成長を実感しやすくなるよう支援する。これらの指導を通して、児童が不完全な表現でも伝え合う喜びを感じながら、互いのやり取りに粘り強く向き合う力を育成していきたい。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本單元における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付け、下記のように整理する。

ステージD「実生活・実社会」

見付けた虫のことを伝えたいな。虫をつかまえるのが得意な〇〇さんなら伝えるためのヒントをもっているかも。

コミュニケーションを通して、自分のよさに気付いたり、友達のよさを認めたりしている。(学級での生活【学びに向かう力、人間性等】)



→ 児童の伝えたいことや聞きたいことに応じて児童同士をつなぐ。

ステージC「他教科等」

ものを観察するときは、「比べる」とよかったな。…何を比べると分かりやすく伝えることができるかな？



差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現している。(理科【思考力、判断力、表現力等】)

→ 児童が対象を観察する際に用いる視点(色、形、大きさ、数等)を用いて Small Talk を行う。

ステージB「同教科」

言いたいことがうまく伝わらない。どうすればいいのかな？



身の回りの物について、動作を交えながら簡単な語句や基本的な表現を使って伝え合っている。(外国語活動「話すこと[やり取り]」【思考力、判断力、表現力等】)

→ 「本当に言いたいこと」を伝えたいゴールを設定する。十分に準備してから話すのではなく、毎時間を即興的なやり取りの場とする。

ステージA「同単元・領域」

葉っぱの形に似ている虫がいるぞ!クイズにするにはどんな表現が必要かな？



外国語の基本的な表現に慣れ親しんでいる。(外国語活動「話すこと」【知識及び技能】)

→ 毎時間の Small Talk で既習表現を取り入れながら話す。

単元のゴール：
友達や先生と、
身の回りの不思議や発見を伝え合おう。

ステージD「実生活・実社会」

友達の発見は不思議で面白かったな。自分もあんな発見をしたい! みんなをワクワクさせる不思議なことが身の回りにないか探してみよう。



コミュニケーションを通して、自分のよさに気付いたり、友達のよさを認めたりしている。(学級での生活【学びに向かう力、人間性等】)

→ 身の回りの写真や動画を撮りためておき、発見の手がかりにすることができるようにする。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

身の回りにある物について、その不思議や発見を伝え合うために、相手に伝わるよう表現方法を工夫して話したり、相手の話を丁寧に受け止め、反応や質問を示しながら聞いたりすることができるようにする。

(2) 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気付き、身の回りの物の言い方や、ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。	身の回りにある不思議や発見したことについて、教師や友達の話の聞いて大まかな内容をつかみ、反応したり質問したりしながら聞いている。	身の回りにある不思議や発見したことについて、教師や友達の話の聞いて大まかな内容をつかみ、反応したり質問したりしながら相手に理解を示している。
話すこと [やり取り]	身の回りの物の言い方や、ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。	身の回りにある不思議や発見したことを伝え合うために、相手に伝わるよう工夫しながらクイズを出したり答えたりしている。	身の回りにある不思議や発見したことを伝え合うために、既習表現や非言語材料を用いてクイズを出したり答えたりしようとしている。

4 単元の指導計画（全8時間 本時6／8時間目）

時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価の観点			評価規準（◆）【観点】	回遊
			知	思	主		
1	○単元のゴールを決める。 ○万博の目的や魅力を考える。	・万博に込められた思いを考え、活動する際の明確な相手意識・目的意識をもつことができるようにする。				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。	A D
3の2パビリオンを開いて、身の回りの不思議や発見を伝え合おう！							
2	○“What's this?” クイズをしよう①（身近な植物編）	・「話し手」「聞き手」を明確にしながら、1対1や全体でのやり取りを繰り返し、全員が発話の機会を得られるようにする。	聞 や	聞	聞	◆クイズを出したり、答えたりするために必要な表現に慣れ親しんでいる。 【知・技】 ◆教師の出すクイズを、内容を推測しながら聞き、大まかな内容を捉えようとしている。 【思】【主】	A B C D
3	○“What's this?” クイズをしよう②（身近な生き物編）	・教師自身が短い言葉や簡単な言葉に言い換えながら話したり聞いたりするモデルを示し、誤りを怖がらず表現できる風土をつくる。					
4	○“What's this?” クイズをしよう③（実験編）	・「伝えたい」「知りたい」気持ちが生まれるよう、実物や音・においなどの感覚を生かした素材を扱う。					
5	○友達に伝えたい事柄を選ぶ。	・小グループに分け、友達に伝えたい事柄を話し合う時間を設ける。	聞 や	聞 や	聞 や	◆身の回りの不思議や発見を伝え合うために、ジェスチャーや具体物等を使って工夫して話したり、質問や反応をしながら聞いたりしている。 【思】【主】	A B C D
6	○身の回りの不思議や発見を友達と伝え合う。	・繰り返しやり取りする場を設け、工夫を探したり、気付きを得るとすぐに練習したりすることができるようにする。					
7							
8	○単元を振り返る。	・児童が伝え合う過程に焦点を当ててフィードバックを行う。単元全体を通して、どのような学びの過程で、どんな力が身に付いたのか振り返ることができるよう、振り返りの視点を整理する。		聞 や	聞 や	◆身の回りの不思議や発見を伝え合い、互いの発見のよさや面白さを見付けている。 【思】【主】	A B C D

※聞：「聞くこと」、や：「話すこと [やり取り]」

5 本時の指導（6／8）

(1) 指導目標

身の回りの不思議や発見したことについて、既習表現や非言語材料を用いて相手に伝えるよう工夫しながら表現したり、相手の話を聞いて質問したり反応したりすることで、互いの伝えたいことを理解することができるようにする。

(2) 評価規準

イウ 身の回りの不思議や発見について、相手が分かりやすいように工夫しながら伝え合っている。

【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開（波線部は「回遊する学び」に関わる手立て）

学習活動と児童の反応（{ }）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
1 前時までの活動を振り返り、学んだことを共有する。（5分） ・前回は、〇〇さんが質問をしていたのを見て、自分もいろんな質問をしてみたいと思ったよ。 ・今日は初めて友達に発見を伝えるから、ドキドキする。 2 教師同士のやり取りを、内容を推測しながら聞く。（5分） T1 (ALT) : I'm thirsty. T2 (担任) : Thirsty? Me too. Oh, I have a drink. What's this? T1: Is it white? T2: No, it's not. It is black. T1: Black? Is it cola? T2: Yes! That's right. Here you are. T1: Thank you. (コップに飲み物を注ぐと、水の色が変わる) ...What?! What's this?!	1 前時の学習を振り返り、伝え合う過程によって得られた学びを共有する。その際、聞き手の視点から友達のよさに気付いている児童の振り返りを取り上げることで、聞き手としての視点をもって活動に臨むことができるようにする。 2-(1) 伝え合う相手と目的を確認する。 2-(2) 児童が話の内容を推測しながら聞き、<u>大まかな内容を捉えることができるようにするために、簡単に短い語に言い換えたり、ジェスチャーを交えたりしながら話す。</u>（A B） 2-(3) <u>やり取りを聞いてどんな感想をもったか尋ね、内容に着目して聞くことができるようにする。</u>（C D）
身の回りの不思議や発見を伝え合おう	
3 身の回りの不思議や発見について伝え合う。（25分） (1) 身の回りの不思議や発見について友達とクイズを出し合う。 【児童同士のやり取りの例：うく？しずむ？水パビリオン】 S1: Hello! (中身の分からない箱を見せて) What's this? S2: Hello. ...Is it a fruit? S3: No. It is not a fruit. S4: Is it red? S3: Yes! It is red! And it is green. S2: Red and green? OK. Is it ... a strawberry? S1: Yes! Good! (水を指して) Up? Down? (2) やり取りの感想を伝え合う。 ・虫パビリオンが面白かった！初めて見た虫がいたよ。 ・どうして重くて大きい野菜が水に浮かぶの？すごい。 ・友達をびっくりさせることに成功してうれしかった！ ・英語で何と言うか分からなかったからみんなに聞きたい。 ・色のヒントじゃ伝わらなかった。どうしようか。 ・相手が間違えた時は何と声をかけるといいかな。 4 本時の学習を振り返る。（10分） ・色、形、手ざわり等たくさんヒントにできることがありそうだ。 ・いろんな方向から質問する力が身に付いたと思う。 ・友達の発見が面白かった。夏休みにも新しい発見をしたいな。	3-(1) 教師もやり取りに参加し、児童の話聞いて驚いたことを伝えるなど、内容に反応し、それを価値付ける。（C D） 3-(2) 伝え合うために心がけることについて尋ね、やり取りに生かすことができるようにする。 ◆ 身の回りの不思議や発見について、相手に分かりやすいよう工夫して伝え合っているか。（観察、振り返り）【思・判・表】【主】 B 身の回りの不思議や発見について、ジェスチャーや具体物等を用いて伝えたり、反応や質問をしながら聞いたりしている。 C→ 話し手の表現を繰り返したり、簡単な言葉に言い換えたりしながら聞き、伝えたい内容を一緒に確かめる。 3-(3) 話を聞いて初めて知ったことや驚いたことについて問うことで、話し手の内容がきちんと伝わっていたことを確認したり、聞き手が内容に着目して聞いていたことを価値付けたりする。 3-(4) 児童の気付きを取り上げ、なぜ聞き手としての姿勢が大切なのかを問い、理由を考えることで、今後のやり取りに生かすことができるようにする。 4 やり取りの過程に目を向けて振り返ることができるよう具体的な場面を挙げ、どんな力が身に付いたかを問いかける。

